



平成26年9月10日  
日本生命保険相互会社

## ニッセイ インターネットアンケート ～9月:「敬老の日」について～

日本生命保険相互会社（社長：筒井義信）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ（<http://www.nissay.co.jp>）内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「敬老の日」に関するアンケート調査を実施いたしました。

今回は「介護の日」に関するアンケート調査結果を発表いたしますので、ご期待ください。

### 《調査概要》

- 調査期間：平成26年8月1日（金）～8月17日（日）
- 実施方法：インターネット（PC・携帯電話モバイルサイト）による回答
- 調査対象：「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数：13,057名（男性：7,666名、女性：5,391名）

<年代別回答者数>

(名, %)

年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
	人数	818	2,214	4,073	3,570	1,783	
占率	6.3	17.0	31.2	27.3	13.6	4.6	100.0

#### 【質問1】 「敬老の日」のプレゼントについて

- (1)  プレゼントは何を贈る予定ですか？
- (2)  プレゼントは何がほしいですか？
- (3)  「敬老の日」のプレゼントにかかる予算はいくらですか？
- (4)  昨年と比べて高いですか？安いですか？
- (5)  プレゼントの希望金額は？

#### 【質問2】 老後の生活について

- (1) ◆ 「敬老の日」でお祝いされる対象は何歳からだと思いますか？
- (2) ◆ ゆとりある老後生活に必要な1カ月あたりの生活費（夫婦2名合計）はいくらくらいだと思いますか？
- (3) ◆ (2)の金額を確保するために、自助努力での準備を進めていますか？
- (4) ◆ 老後の生活のために何歳まで働く予定ですか？  
もしくは働く必要があると思いますか？
- (5) ◆ 老後の生活費が準備できた場合（できている場合）余裕資金をどのように活用したいですか？

- ⇒ 贈る側への質問  
□ ⇒ 贈られる側への質問  
◆ ⇒ 全層への質問

【質問1】「敬老の日」のプレゼントについて

- (1) 【贈る側への質問】 プレゼントは何を贈る予定ですか？ (回答者数:6, 430名)  
 (2) 【贈られる側への質問】 プレゼントは何がほしいですか？ (回答者数:1, 076名)

○ 昨年同様、贈る側も贈られる側も1位は「食事・グルメ」となった。贈られる側は「旅行・温泉」が2位に続くが、贈る側との思いには今年も開きがあるようだ。  
 ○ また、贈られる側のほしいものとして、「手紙・メール」「電話でお祝い」の合計が1割を超えた。離れて暮らすケース等では連絡をもらうだけでも嬉しいようだ。

(1)何を贈る予定ですか？

		[%]
1	食事・グルメ	33.2
2	お菓子	13.8
3	衣類・アクセサリ	12.9
4	花	12.8
5	酒類	6.3
6	現金・金券	6.0
7	電話でお祝い	3.9
8	旅行・温泉	3.7
9	健康グッズ	3.4
10	その他	2.2
11	手紙・メール	1.8

(2)何がほしいですか？

		[%]
1	食事・グルメ	27.9
2	旅行・温泉	18.6
3	酒類	9.9
4	現金・金券	7.5
5	花	7.3
6	手紙・メール	7.0
7	衣類・アクセサリ	6.2
8	電話でお祝い	5.8
9	お菓子	3.8
10	その他	3.1
11	健康グッズ	2.9

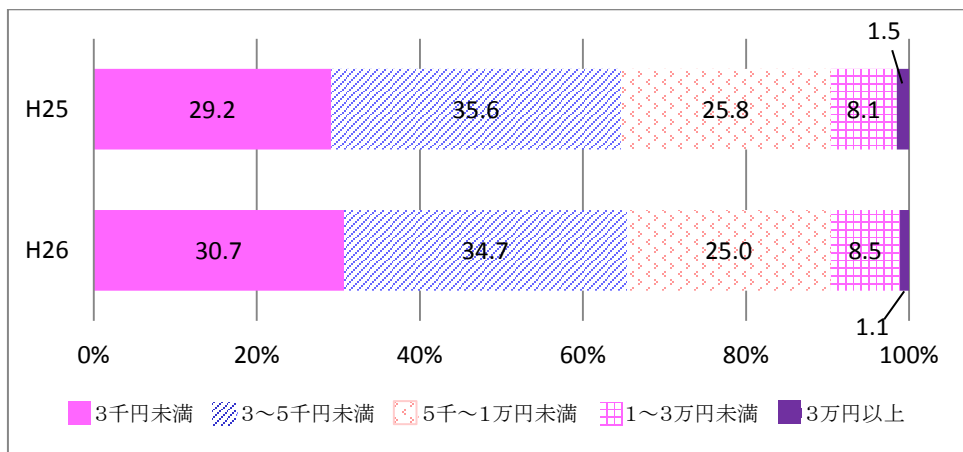
<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

- 昨年同様の結果が得られましたが、昨年比でも経験や体験、思い出等、イベントにお金を費やす“コト消費”への傾向がさらに強まっているようです。「敬老の日」も贈られる側は、子や孫とのつながりや時間を求めているのではないのでしょうか。



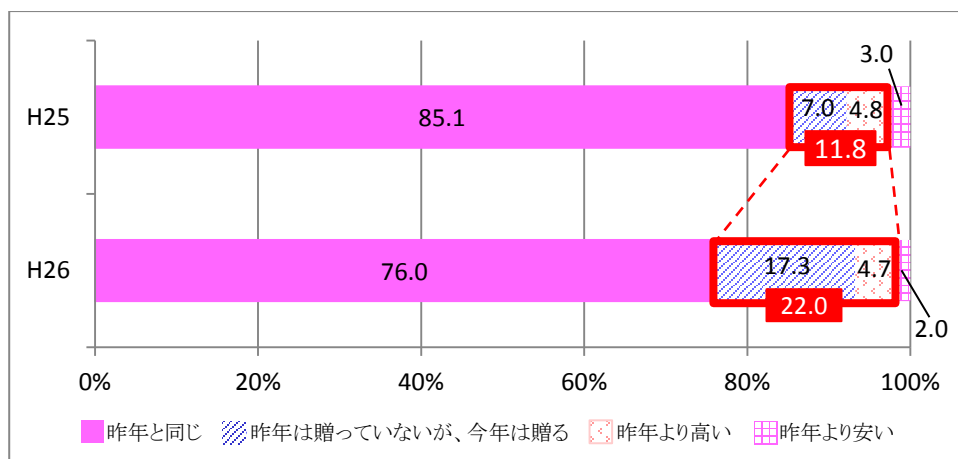
- (3) 【贈る側への質問】「敬老の日」のプレゼントにかかる予算はいくらですか？ (回答者数:6, 926名)

○ プレゼント予算は昨年同様、5千円未満が約65%を占めた。そのうち、3～5千円未満が34.7%と最多となっている。



(4) 【贈る側への質問】 昨年と比べて高いですか？ 安いですか？ (回答者数:7,081名)

○ 予算が「昨年より安い」と回答した方はわずか2%と昨年より減少。また、「昨年は贈っていないが、今年は贈る」と回答した方と「昨年より高い」と回答した方をあわせると22%に達した。

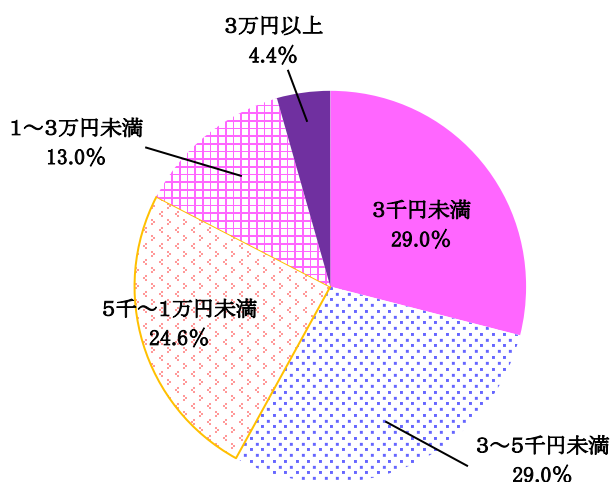


<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

○ 「昨年は贈っていないが、今年は贈る」という方が増加しています。また、プレゼント予算を減らす方も2%しかいません。4月の消費税増税後、個人消費は落ち込みの傾向がありますが、夏のボーナスが昨年に比べ増加した企業も多かったこと等から、「敬老の日」のプレゼント予算にはその影響はあらわれていないようです。

(5) 【贈られる側への質問】 プレゼントの希望金額は？ (回答者数:1,106名)

○ 昨年同様、1万円未満が約80%、うち5千円未満が約60%を占めており、プレゼントを贈ってくれる気持ちが嬉しいという方が多いようだ。



【質問2】 老後の生活について

(1) 「敬老の日」でお祝いされる対象は何歳からだと思いますか？ (回答者数:13,057名)

- 70歳以上と考えている層が昨年と比べて約2%増加し、48.5%を占める。
- 年代別に見ると、昨年同様、40代以下では「60～64歳」が多い一方、50代以上では「70～74歳」が最も多く、現在高齢の方ほどお祝いされる対象年齢は高いと考えているようだ。

[%]

	全年代		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
		対前年						
90歳以上	0.6	0.0	0.5	0.5	0.7	0.7	0.5	1.2
85～89歳	0.8	0.0	0.5	0.7	0.4	1.0	1.5	0.3
80～84歳	48.5	5.8	0.6	3.2	3.3	4.7	6.6	8.9
75～79歳	8.8	1.2	5.4	5.0	6.6	9.7	15.8	17.2
70～74歳	32.5	0.5	25.4	24.2	27.2	39.9	40.7	38.9
65～69歳	24.5	-0.4	23.8	24.6	26.8	25.4	20.0	18.2
60～64歳	24.5	-1.7	35.0	36.6	31.4	15.4	11.6	11.9
55～59歳	1.3	0.1	2.2	2.7	1.2	0.6	0.7	0.7
50～54歳	1.2	-0.2	4.0	2.3	1.0	0.7	0.3	0.3
計	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

- 昨年に比べると、「70～84歳」と回答された方が増えており、対象年齢は上昇傾向にあるようです。日本人の平均寿命は年々上昇しており、世界一の長寿国となっています。最近の健康ブームにより、シニア層でもウォーキングや登山が流行している等、活動的で健康への意識が高い方が増えているからだと思います。今後もお祝いされる対象年齢は上昇していくのではないのでしょうか。

(2) ゆとりある老後生活に必要な1カ月あたりの生活費(夫婦2名合計)はいくらくらいだと思いますか？ (回答者数:12,866名)

- 「30万円以上必要」と回答した方が70代以上を除く全層で増加。全体では約3%増え、55.7%となった。
- 一方で、40代以下と50代以上では10%以上の開きがあり、現在高齢の方ほど多くの生活費が必要と感じているようだ。

[%]

	全年代		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
		対前年						
20万未満	8.1	-0.8	13.4	12.2	9.1	4.9	4.9	7.9
20～24万	22.3	-1.6	23.9	27.9	26.0	18.7	14.9	17.0
25～29万	13.9	-0.7	14.7	12.2	13.6	14.9	14.2	14.7
30～34万	55.7	36.3	1.2	30.3	32.2	34.3	40.6	39.4
35万以上	19.4	2.0	48.0	17.7	47.7	15.5	51.3	17.0
	61.5	20.9	66.0	26.6	60.3	22.4		
計	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

- 日本経済は物の値段が上がらないデフレ状態が長く続いていましたが、日銀の金融緩和や消費税増税の影響等も加わってじわじわと物の値段が上がっています。今後、物の値段が上がっていけば、上昇分に応じて必要となる生活費の額も上がっていくでしょう。

(3) (2)の金額を確保するために、自助努力での準備を進めていますか？ (回答者数:13,057名)

- 「まあまあ進めている」と「まだまだ不十分」がほぼ同水準で多数を占めた。
- 「十分進めている」「進めている」と回答した方は昨年と比べて1.6%増加。年代別に見ると、50代以下と60代以上では「十分進めている」と「進めている」をあわせると、約9%の開きがあり、高齢の方ほど自助努力での準備を進めている傾向があるようだ。

[%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
十分進めている	6.8	7.0	6.4	4.8	5.4	11.7	15.9
進めている	21.9	20.8	19.5	19.2	21.0	29.6	32.9
まあまあ進めている	27.3	22.4	23.6	25.5	29.7	32.3	29.2
まだまだ不十分	26.4	24.9	28.0	30.0	27.8	18.1	13.7
不十分	11.5	10.1	12.5	12.4	12.1	8.9	9.0
何もしていない	12.9	21.8	16.4	12.9	9.4	11.1	15.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) 老後の生活のために何歳まで働く予定ですか？もしくは働く必要があると思いますか？

(回答者数:13,057名)

- 昨年同様、「65～69歳」が全年代で最多となり半数以上を占めた。また、約8割の方が65歳以上まで働く」と回答している。
- 年齢別に見ると、昨年同様、60代以上では「70～74歳」「75歳以上」が他の年代よりも高く、現在高齢の方ほど長く働く必要があると感じている方が多いようだ。

[%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
75歳以上	5.5	3.1	4.1	4.7	5.1	5.7	22.4
70～74歳	79.0	20.3	13.3	17.7	21.0	17.6	32.6
65～69歳	53.2	53.5	57.2	53.1	54.0	52.5	35.4
60～64歳	18.7	25.9	18.2	18.8	21.3	14.1	7.5
60歳未満	2.3	4.2	2.8	2.4	2.0	1.5	2.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

- 昨年に比べ、老後の自助努力を進めている方がわずかに増加したようです。今年から老後の資産形成を促進する目的で、少額投資非課税制度(NISA)が開始された影響があるでしょう。
- シニア層は定年後も働く意欲が高い方が多いと推測される結果です。一方で、雇用者側からは人手不足も叫ばれています。今後、定年退職後の就労を促すことや求人求職のミスマッチの解消等、シニア層が活躍できる仕組み作りがより一層重要です。

(5) 老後の生活費が準備できた場合(できている場合)余裕資金をどのように活用したいですか？

(回答者数: 13, 057名)

- 昨年同様、「旅行・温泉」が36.7%で最多。「日常生活費の充実」、「趣味・教養」と続いた。余裕資金は自身のために活用したいと考えている方が多いようだ。

[%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
旅行・温泉	36.7	37.5	35.0	35.6	37.8	40.0	33.7
日常生活の充実	30.6	29.0	32.3	32.2	29.7	27.3	31.2
趣味・教養	15.7	17.4	15.2	14.9	16.3	16.5	15.2
子どもや孫への資金援助	8.8	8.4	9.1	9.0	8.1	8.7	12.5
貯蓄	7.3	7.2	7.3	7.8	7.1	6.8	6.5
その他	0.9	0.5	1.1	0.5	1.0	0.7	0.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

<ニッセイ基礎研究所 矢嶋康次 チーフエコノミストのコメント>

- 老後は時間的、経済的にも余裕があり、忙しい働き世代に比べ旅行に出かけやすく、趣味等も楽しめます。
- 現在65歳以上の方は全人口の25%を超え、今後も上昇していくことから消費をリードしていく存在です。シニア層をターゲットとした商品やサービスがどんどん増えてくると思います。

以上

H26-874G, 広報部